

令和5年度 学校評価 自己評価書（後期）

No.	評価項目	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない	無回答	ポイント	前期ポイント	前年度同時期	差
		10	5	5	-10	0				
1	中高一貫教育校独特の教育目標を職員全員が共通理解し、達成のための共通実践がなされているか。	23%	71%	6%	0%	0%	5.5	4.3	4.3	1.2
2	校訓のもと、文武両道、行学一体の伝統を継承し、中高一貫教育校として教育目標の達成に努めたか。	27%	68%	3%	2%	0%	5.8	5.7	4.8	1.0
3	職員研修の充実に努め、6年間を見通した教育課程の編成・実施に創意工夫を行い、生徒の実態に応じた教育活動を展開したか。	20%	69%	11%	0%	0%	4.9	5.2	4.3	0.6
4	国際性の育成をめざし、留学生の受入や国際交流活動の運営等に積極的に参加したか。	45%	36%	18%	0%	0%	5.5	3.9	2.3	3.2
5	適切な計画を立て、見通しを持って主体的に仕事を進めることができたか。	29%	67%	5%	0%	0%	6.0	5.8	5.4	0.6
6	教科指導は、指導計画(シラバス)に沿って計画通りに進められたか。	32%	63%	5%	0%	0%	6.2	6.0	5.1	1.1
7	教材研究を十分行い、指導内容の精選に努めたか。	39%	55%	6%	0%	0%	6.3	6.4	5.7	0.6
8	考査問題は教科部会等で十分検討して作成し、結果についての分析を行い、その後の指導に生かしたか。	36%	56%	8%	0%	0%	6.0	6.3	6.4	-0.4
9	基礎的・基本的な内容を定着させる指導をしているか。	41%	58%	2%	0%	0%	6.9	7.1	6.8	0.1
10	家庭との連携を図り、家庭学習の充実を図ったか。	14%	59%	27%	0%	0%	3.0	4.0	2.8	0.3
11	自己の教科指導力の向上のための研鑽を行い、真の学力の向上に努めたか。	31%	61%	8%	0%	0%	5.8	6.1	5.4	0.3
12	6年間を見通した指導計画の作成と、発達の段階に応じた個性を生かしのばす指導の充実を図ったか。	11%	76%	14%	0%	0%	4.2	4.0	3.0	1.2
13	人間の生き方に関する指導の一貫として将来の人生設計を立て、目的意識をもった生活ができるような適切な進路指導を推進したか。	24%	73%	3%	0%	0%	5.9	5.5	5.2	0.7
14	自己理解を深め自己実現を図っていくための適切な進路情報の提供と校内考査や対外模試等の効果的な活用を図ったか。	25%	68%	8%	0%	0%	5.5	5.0	5.4	0.0
15	豊かな人間性をはぐくむために全職員の共通理解、共通実践による生徒指導は充実したか。	23%	73%	5%	0%	0%	5.7	4.9	4.8	0.9
16	普段から家庭との緊密な連携に努め、個に応じた指導を行うことができたか。	36%	61%	3%	0%	0%	6.5	5.4	5.7	0.8
17	問題傾向をもつ生徒に対して、関係機関との連携を図りながらカウンセリング等を生かした指導に努めたか。	32%	59%	9%	0%	0%	5.7	4.8	5.6	0.1
18	不登校(傾向)の生徒に対して、家庭や関係機関等との連携を図りながら解消に努めたか。	30%	56%	14%	0%	0%	5.2	5.0	4.7	0.4
19	清潔できちんとした身だしなみ、整理整頓、規則正しい生活等基本的な生活習慣を確立するとともに、心の教育を推進できたか。	36%	62%	2%	0%	0%	6.7	6.4	5.9	0.8
20	施設設備の安全点検と危険箇所への適切な措置を図るとともに、安全に対する事前の指導を徹底することができたか。	26%	68%	6%	0%	0%	5.7	5.9	6.6	-0.9
21	師弟同行で清掃を行い、環境衛生の改善・充実に努めることができたか。	33%	64%	3%	0%	0%	6.4	6.6	7.1	-0.7

今年度回答数 66/67 (99%), 前年度回答数 57/63 (90%)

【分析】

全21項目のうち、18項目で評価が上昇した。下降した項目は項目20「安全」(前年度比-0.9)と項目21「清掃・環境」(-0.7)と項目8「考査問題」(-0.4)であり、相対的には評価の高い項目であるが、次年度に評価が下がることがないようにしなければならない。上昇が最も大きかったのは項目4「国際交流活動」(+3.2)で大幅な上昇となった。マタデーカレッジの生徒受け入れや中国などへの交流やStanford-Kagoshimaなどが実施できるようになったことが大きな要因であるといえる。その他で1ポイント以上上昇した項目は、項目1「教育目標の共通理解・実践」(+1.2)、項目2「校訓のもと教育目標の達成」(+1.0)、項目6「計画通りに教科指導」(1.1)、項目12「6年間の指導計画と指導の充実」(+1.2)の4項目であり、目標や計画が理解・実践できていると考えている職員の割合が増えているといえる。